

さんりんしゃ

Aira city Nishikie Kindergarten

| phone 63-2038

| fax 63-2034

「子どものため」って 本当ですか？

親は子どものために、しばしば口や手を出します。「あれをきなさい」「そんなことをしてはダメ」と、よかれと思って口や手を出しているつもりなのですが、実はその“よかれ”と思っている“よかれ”のなかには、子どもに対する愛情と親自身の自己愛が混在していることが多いものです。そして、この区別がつかなくなってしまうことが、しばしば問題を起こしてしまいます。自己愛のない人はいません。人は程度の差こそあれ、だれでも自己愛的な感情をもっています。子どもにあれこれ指図し、結果として子どもがうまくいかなかったときに「どうしてできないの！」などと怒る親がいます。このような場合、「あなたのためを思ってやっているのよ」といったとしても、それは親の自己愛です。子どもに対する愛情ではないのです」大きな勘違いなんですね。



白いポケットの読み聞かせから

子どもが見た“うちのお母さん”

先日、自宅で自分の机や本棚の整理をしていたら、数年前の幼稚園の資料が出てきました。その資料というのが、子どもたちに、「あなたのお母さんてどんな人」と尋ねたものでした。（聞き取り資料です）

「ぼくのお母さんて、いつもキッチンとキッチンとが口ぐせなんだ」だから、ブロックで遊ぶのもめんどくさいんだ。だってキッチンと片付けないといけないでしょ。といった子どもがいました。また、「お母さんのやさしいところはどこかな」といった問いかけには、こんな答えが返ってきていました。「やさしくない！すぐ怒る」「いつも怒ってる！」そんな言葉が勢いよく飛び出したこと。それに対して、「そういう時もあるけど、よく考えてみてごらん。きっとやさしいところってあると思うよ」と返すと、「おもちゃ買ってくれる」「洋服買ってくれる」「どこかに連れていってくれる」ある意味、不自由をさせない愛を、子どもたちはやさしさととらえているのでしょうか。母親の至らなさを補うかのように、どこかに連れ出すつぐないのようなやさしさ・・・それは度を過ぎると過保護となり、子どもは責任感のない人生を歩くような気がします。



いも掘り体験

お母さんの時間

毎日子育てや仕事に一生懸命なお母さんです。

子どもが幼児であれ、小学生であれ、親は子どもを養育することは当然ですが、生活の中に「子どもの軸」と「自分の軸」という2つの軸を用意して、とくに自分の軸のところで好きなことや自由に使える時間という状況を作り出すことです。これはご主人の協力も必要ですが、お父さんに仕事の休日があるように、お母さん方にも休日が必要です。大事なことは、子育ての時間から離れて自分の時間をもてる喜びの体験があることなんです。お預かりを利用されるお母さん方には、積極的に自分の時間を作り出す工夫をしているともいえます。もう一つは、お父さんとの会話を積極的にし、会話の時間を増やすことも大事なことです。

お母さんにも休日が必要です。おね。子育てから逃げ出す意味ではありませんよ。

ママ友の集まりや家庭教育学級への参加も、お母さんの時間で栄養源になるんですね。

お母さんに求めているものって・・・

「わたしの下の赤ちゃんが寝ているとき、わたしにお話を読んでくれる」「運動会の日、よくがんばったねって頭をなでてくれた」「病気のお猿さんのテレビを観て、お母さん涙がこぼれたんだよ」・・・と。

自分を温かく受け入れてくれた時のこと、ほめてくれたこと、スキンシップのかかわり、感動する心を身を持って教えてくれた時のこと等を、子どもたちはやっぱりよく覚えていてるのです。

「お母さーん」

「なーに、そうなの。よかったね」

とすぐ聞いてくれるお母さん。感動の心を忘れずに、笑顔で大きく包んでくれるお母さん。

子どもの誰もがそんなやさしさを、お母さんに求めているのではないのでしょうか。

親が満たしえなかった願望を、わが子によって果たそうという気持ちを強く持ちすぎると、子どもへの過剰な期待となってしまいます。大事なことは、子どもの実態（発達段階）をよく把握することです。



まっとうやさんの読み聞かせから

